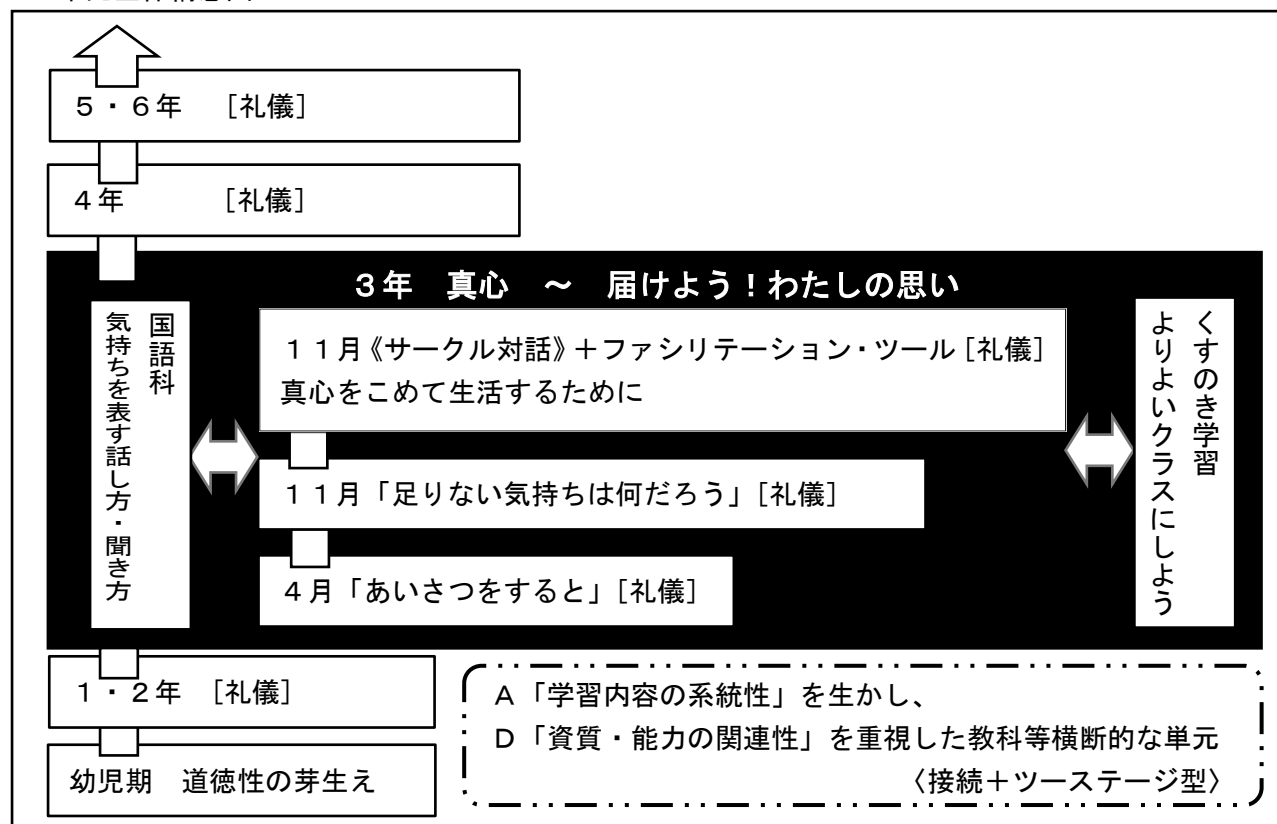


第3学年星組 道徳科（+国語科・くすのき学習【学級・学校】）

「真心 ～ 届けよう！わたしの思い」

指導者 石崎 正人

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、道徳科における内容項目 [礼儀] を中心に構想した。礼儀とは、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛の気持ちを具体的に示すことである。礼儀正しい行為をすることによって、自分も相手も気持ちよく過ごすことができる。人間関係を豊かにして社会生活を円滑に営めるようにするために創造された文化の一つである。一方で、社会生活の秩序を保つために守るべき行動様式であり、長い間に培われてきた慣習であると捉えられる。どちらも根底にあるのは、他者に対する配慮であり、相手に対して真心のこもった応対をすることが大切である。真心とは、相手のことを親身に思いやる心である。それが形となって表されることにより、誠意のある行為につながる。形だけで礼儀正しい行為をしたとしても、心が伴っていないと礼は通じない。つまり、心と形が一体となって表れてこそ、そのよさが認められる。

本学級は、素直で明るく、気持ちのよい挨拶をすることができる子どもが多い。2学期に入り、資料室の前で立ち止まって元気よく挨拶をする子や、深々とお辞儀をする子などが増えてきており、挨拶の輪が広がってきている。スーパーマーケットへ見学に行った際には、インタビューの仕方の学習を生かし、相手の都合を伺うなど丁寧にインタビューする姿が見られた。教えてもらったことや認められたことに対して、更に頑張っていこうという気持ちの高まりが見られる。一方で、一部ではあるがバスや電車の乗り方で、周りのことを考えずに大きな声でしゃべったり、到着したときに先に降車しようとしたりする姿も見られる。

これまでに、道徳科において「挨拶をすると仲良くなれるのか」について考えてきた経験がある。挨拶をすることが大切であることは分かっているものの、誰に対しても同じように行っていくのは簡単なことではない。よりよく生きていくためには、知らない人に対して黙ったまま通り過ぎるのではなく、挨拶や会釈をすることで相手が笑顔になり、気持ちが明るくなることを実感し、自分もそうありたいと思うことが大切である。本教材では、日常、目にする場面を取り上げており、子どもは自分のこととし

て捉えやすい。いくつかの場面を取り上げ、どの場面においても共通している足りない気持ちは何かを考えさせることで、友達や先生、見知らぬ人など様々な人とかかわりながら円滑に生活をしていくためには、相手を敬い、その気持ちを態度で示すことが大切であることに気付かせることができる。

そうしたことを話し合う際に大切にしたいのは、国語科における「伝え合う力」である。教師がねらいとする道徳的価値について伝えるだけでは、価値の押し付けになってしまう。自分の考えを伝え、他者の考えを受け止めながら、子ども同士で話し合いを進めることで、礼儀という価値について理解することが大切である。さらに、国語科や道徳科で培った資質・能力を生かし発揮する場としてくすのき学習【学級・学校】を設定した。よりよいクラスにしていこうと話し方や聞き方に気を付けながら、普段の生活の中で、相手を敬う気持ちを持って行動したり、係活動に取り組んだりしてほしい。

3 単元のねらい

礼儀の大切さを理解し、誰に対しても真心を持って接しようとする態度を養う。

4 単元の展開（全3時間）

場面	主題と主な学習活動	評価の規準	時数
出 合 い	真心をこめて 「あいさつをすると」 ○ 挨拶を中心に、礼儀正しくすることのよさについて考える。	● 礼儀の大切さに気付き、気持ちのよい挨拶をしようという思いが高まったか。	1
追 究	真心を持って 「足りない気持ちは何だろう」 ○ いろいろな人に対して、どのような気持ちで接していけばよいかを考える。	● 形だけではなく、相手を敬う気持ちで接することが大切であると気付くことができたか。	1 本 時
振 り 返 り	真心をこめて生活するために ○ これまでの生活や学習を振り返り、真心をこめていろいろな人と生活するために大切なことについて考える。	● 相手に対して真心を込めて接していきたいという思いが高まったか。	1

5 単元における指導と評価の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導と評価の工夫（学習材・他者・自分自身）
出 合 い	<ul style="list-style-type: none"> ポイントとなる言葉や挿絵を提示し、「その気持ち分かるな」「自分にも似た経験がある」といった思いを大切に、自分のこととして考えられるようにする。（学） 挨拶をしたり、丁寧な言葉遣いで話したりするのはどうしてかを尋ねることで、これまで持っている価値観を問い直したり、自分の持っている価値観を確認したりする。（学）（自） 事前に資料を読んでおくことで、課題についてじっくりと考えられるようにする。（学）
追 究	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの子どもの考えを引き出すことができるように、小集団による話し合いを行い、どうしてそのように考えたのかを子ども同士で互いに聞き合う場を設け、自分の考えを確かなものにする。（他） ファシリテーション・ツール（ホワイトボード、付箋紙）を活用して、自分の考えと共通しているところや違うところはどこかを比較しやすくする。（他） 小集団でどのように考えをまとめたのか、ファシリテーション・ツールから見取る。（他） 全体の話合いでは、教師が根拠を問うなど切り返しの発問を行い、礼儀正しい行為の背景にある思いについて考えるようにする。（他）（自）
振 り 返 り	<ul style="list-style-type: none"> 終末に自分が納得できる考えを書く活動を取り入れ、自己を見詰める場を設ける。（自） 自己の生き方について考えを深めることができたのかを、ワークシートで見取る。（自） 学級でまとめた考えについては、そのときの板書と共に教室に掲示し、普段の生活の中で、道徳科で学習してきたことが、役に立つことを実感できるようにする。（自） サークル対話で、礼儀正しい自分であるために大切なことについて、じっくり話し合う場を設け、自己の生き方についての考えを深められるようにする。（他）（自）

6 本時の授業 (2/3)

- (1) 日時 令和元年11月6日(水) 13:40~14:25
- (2) 場所 3年星組教室
- (3) ねらい 礼儀の大切さを理解し、誰に対しても真心を持って接しようとする態度を養う。
- (4) 準備物 挿絵、センテンスカード、付箋紙、ホワイトボード、マジック、ワークシート
- (5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導 (○) と評価 (●)
<p>1 これまでの自分の生活を振り返る。</p> <p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>3 これまでの話し合いを振り返って、考えたことをここに日記に書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>これまでに「この人礼儀正しいな」と感じたことはあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をすると、元気よく返してくれたりお辞儀をしてくれたりする人がいたな。 ・トイレのスリッパを揃えるのは礼儀正しいかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>この場面を見て、どう思うかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の家で勝手に冷蔵庫を開けたり、いろいろな部屋に入ったりしていけないな。 ・先生と話している子がいるのに、途中で割り込んで失礼だな。 ・図書館で大きな声でしゃべって、周りにいる人たちに迷惑だな。 ・先生には挨拶をするのに、ボランティアの方に挨拶しなくて、感じが悪いな。 ・周りのことを考えずに、傘についた雨のしずくを振り払おうとしていて、迷惑をかけているな。 ・校外学習で、職員の方が一生懸命説明してくださっているのに、おしゃべりをしていていけないな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>どの場面にも共通している足りない気持ちは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけではなく、人のことを考える気持ちは大切なんじゃないかな。 ・こういうことをしている自分は恥ずかしいと思う気持ちは足りないんじゃない。 ・心の中では、大切だと思っても、態度で示さないと伝わらないから、相手に対して、ありがとうという気持ちを行動で表す気持ちは足りないんじゃないかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「礼儀正しい」とはどういうことなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうという気持ちを相手に届けることじゃないかな。 ・自分がされて失礼だと思わないことじゃないかな。 ・相手がうれしい気持ちになるように考えて、行動することかもしれないな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>今日の学習で思ったことや考えたことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えるとはどういうことなのか、みんなと話し合えて、いろいろな考えがあるということが分かった。 ・考えるだけでなく、態度で示すことが大切だということが分かった。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の生活を振り返ることで、ねらいとする価値の方向付けを図る。 ○ モニターに場面を映し、状況を把握しやすくすることで、課題意識を醸成する。 ● 課題に対する自分の考えを持つことができているか。 [記述、発表] ○ 自分の考えを持って話合いに参加できるように、自分の考えを付箋紙に書く時間を十分に確保する。 ○ 多様な価値観に触れられるように、小グループで、互いの付箋紙を比べ、異同に注目しながら班ごとに考えをまとめられるようにする。 ○ 互いの思いや考えを尊重しながら話合いを進められるようコーディネートする。 ● 形だけではなく、相手を敬う気持ちで接することが大切であると気付くことができたか。 [発表、様態] ○ これまでの自分の生活を振り返りながら、考えを書くよう伝える。

7 評価の具体的な方法

本単元を通して「深い学び」に達したとき、次のような姿が表れると考える。

- 提示された場面から何が問題であるかを捉え、自分のこれまでの生活と重ねながら、どうすべきかを考えようとしている。(学)
- 小集団や全体での話し合いを通して、多様な価値観に触れ、礼儀の大切さについて、自分の考えに自信を持ったり、自分が持ち得ていない価値観に出合ったりして、考えを広げ深めようとしている。(他)
- 自己を見詰め、礼儀正しい自分であるために、これからどういう心持ちで過ごしていきたいかを考えようとしている。(自)

(1) 空間軸から見た手立て

ア 指導者評価

視 点	方 法
○ 自分のこととして考えることができているか。	ワークシート、様態
○ 礼儀の大切さについて、多面的、多角的に考えようとしているか。	ワークシート、付箋紙、様態
○ 礼儀正しくあるために、自分が大切にしたい考えを持つことができているか。	ワークシート、様態

イ 子どもによる自己評価

授業の終末に、自分の学び方についてワークシートを用いて振り返る時間を設ける。

視 点
○ 友達の話をよく聞くことができましたか。
○ 自分の考えを伝えることができましたか。
○ 今まで知らなかったことに気付いたり、新しい考えを思い付いたりすることができましたか。
○ 今日のテーマについてよく話し合い、考えを深めることができましたか。
○ 学習をしてよかった度は何点ですか。なぜその点数にしましたか。

(2) 時間軸から見た手立て

学級で創り上げた大切にしたい考えを掲示し、普段の生活などでも意識できるようにしていく。必要に応じて、礼儀正しくできている姿を取り上げ、全体にフィードバックする。そのときに、どうしてそのような行為をしたのかを尋ねるようにすることで、礼儀正しくするための心持ちについて確認したり、「礼儀正しくできたよかった、これからも続けたい」という思いを高めたりしたい。

学期末には、これまでにワークシートに書いたことを読み返し、印象に残っているものはどれかを振り返るようにする。礼儀について、そのときの自分と今の自分とを比較して、考え方の変化を見取るようにする。